

【出題の意図と対策】

1 近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入られています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。会話形式の問題では、発言者それぞれの意見の主旨やキーワードとなる言葉を的確につかみ、発言の内容を正確に読み取ることが大切です。普段から人の発言などを注意深く聞き、すぐに頭の中でポイントをまとめる訓練をするように努めましょう。

【解答】

① 例 全員の意見〔全員の意思・全員の意志・全員の考え〕

② エ

③ 伺いたい〔承りたい〕

④ 例 質問や反対意見はありませんか(14字)

【解説】

① ポイント《語句の知識があるかどうか》

「総意」を同音異義語の「創意(≠独創的な考え)」と混同しないように、意味の違いを覚えておきましょう。

② ポイント《発言の内容を理解できるかどうか》

【場面2】の川井さんの発言に注目しましょう。アは「Dさん……テーマに合った発言をしてください」と自分の意思をはっきりと示して話題を変えようとしているので誤り、イは「今日の話し合いの結論としては……ダンスを踊るということになっておきます」とまとめていますが、Bさんの言葉をそのまま繰り返しているわけではないので誤り、ウは「教室展示の案が一つと、ステージ発表の案が三つ出ましたね」と自分の解釈を加えています。何らかの判断を促しているわけではないので誤り、エは「バンドの演奏は楽しそうですが……みんなと一緒に参加するのは難しいかもしれないですね」と相手の意向に配慮しつつ、懸念を示唆しているので正解です。

③ ポイント《敬語の知識があるかどうか》

「聞く」を決まった言い方の敬語表現を使って謙譲語にすると、「伺う」「承る」となります。ここでは、文脈に合わせて「伺いたい」「承りたい」と書き改めます。

④ ポイント《発言の内容を理解できるかどうか》

川井さんは、Eさん・Bさん・Fさん・Gさんの話の流れを受けて結論を導きましたが、賛同していない人の存在には気を配っていませんでした。担任の先生からそのことについて指摘されたので、意見をまとめる前に、質問や反対意見がないか、確認すべきだったと反省しているのです。

【出題の意図と対策】

2 文学的文章(小説)の読解です。小説は、主人公のものの考え方や感性、その生き方などを通して、人間とは何か、生きることの意味は何かなど、人間にとって重要なテーマを読者に訴えかけようとするものです。ここでは川端裕人の『竜とわれらの時代』を題材に、主人公たちの行動や、心の動きを読み取ります。小説を読むときには、できるだけ登場人物の立場に立って、その境遇や心情に寄り添いながら読むようにしましょう。

【解答】

① d まもう

② A サクランボのような形

B イチョウモドキ

③ 例 海也に追い越されたように感じ、海也に対して嫉妬を覚え、やる気を失っている(36字)

④ エ

⑤ A 長い間夢に見てきた

B できるだけ冷静

⑥ ウ

【解説】

① ㊦「上滑り」は「物の表面がつるつるして滑ること。物事の表面だけを見て深く考えないこと」を意味する言葉です。「うえずべり」と読まないように注意しましょう。

② ポイント《指示語の指す内容を理解できるかどうか》

「これ」とは、直後の内容から、海也の手元で黒光りしている化石のことだとわかります。さらに読み進めると、「イチョウモドキで、保存のよい葉が七つ」あり、「サクランボのような形のもの(≠果実)が六つ枝についたままの状態」で保存されている化石なのだとわかります。

③ ポイント《人物の心情を理解できるかどうか》

㊦の直前の内容から、海也がいつも「兄が興味を持って始めたものの後からついてきて、すぐに兄を追い越すため、海也に対して「大地は嫉妬を覚えていることを読み取りましょう。そして、今回も海也がすごい保存状態の化石を発見したため、大地は「なんとなくやる気が削がれてしまつて」、そそくさと家に帰る準備をしていたのだと考えられます。このような内容を押さえて、条件に合うようにまとめましょう。

④ ポイント《語句の知識があるかどうか》

「どぎまぎ」は「平静を失って、うるたえる様子」を表す言葉なので、エの「狼狽」が最適です。「どぎどぎ」と似ていますが、「心臓の鼓動が速くなる様子」を表しているわけではないことに注意しましょう。

⑤ ポイント《人物の心情を理解できるかどうか》

まず、㊦の「その言葉」は、直前の「恐竜だ」を指していることを捉えましょう。大地は「中生代白亜紀前期の地層から大型の動物化石」を発見し、地質や化石ができた経緯などについて考察したうえで「恐竜だ」と思い、心の中でその言葉を繰り返して、確信を深めています。大地にとって恐竜の化石は「長い間夢に見てきたもの」なので、次第に鼓動が高まるのを感じながらも、大きく深呼吸することによって「できるだけ冷静」でいようと努めているのです。

⑥ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》

海也は事あるごとに、大地に「兄ちゃん、これ見て」「なんで兄ちゃんは下に転がった石ばかり叩いたんや」「兄ちゃん……これは、何にやるか」と話しかけていることから、大地を頼りがいのある兄として慕っているのだと考えられます。また、大地が海也の質問に丁寧に答えていることや、発見した化石について細かく考察していることなどから、大地は化石に関する豊富な知識や経験を持っていることが読み取れます。よって、ウが正解だとわかります。

【出題の意図と対策】

3 説明的文章の読解です。論説文は、あるテーマに関する研究内容やデータなどについて、筆者が考えを述べた文章です。ここでは、藤原正彦の『国家の品格』を題材に、日本人の自然に対する感受性や自然観などについて考えます。論説文を読むときには、その文章が何について書かれているかを理解し、そこから筆者がどういう結論や考え方を導き出しているかを読み取るようにしましょう。

【解答】

① d 至(る)

② ア・オ

③ 悠久の自然

④ A 人生そのものの象徴

B 別格の美しさ

⑤ イ

⑥ 例 欧米人にとって自然は征服すべき対象だが、日本人は、自然は人間よりも偉大でひれ伏す対象だと考えており、自然に聖なるものを感じ、自然と調和し、自然とともに生きようとするような自然観を持っていた。(95字)

【解説】

- ① ⑥「厚」を「暑」「熱」と間違えないようにしましょう。
- ② ポイント《品詞の識別ができるかどうか》  
 a 「ただちに」とア「きちんと」とオ「常に」はすべて副詞です。イ「新鮮な」とウ「きれいに」は形容動詞、エ「小さな」は連体詞です。

③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
 第三段落に注目して、筆者が「悠久の自然と儂い人生との対比の中に美を発見する感性、このような『もののあわれ』の感性は、日本人がとりわけ鋭い」と説明していることに気づきましよう。

④ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
 ③の直前に「だからこそ」とあるので、それより前の部分に理由が述べられていると考えられます。直前の一文の、日本人は「たつたの三、四日に命をかけて潔く散っていく桜の花に人生を投影し（＝桜の花を人生そのものの象徴と捉え、そこに他の花とは別格の美しさを見出している）」ことが、日本人がこのほか桜を大事にする理由なのです。

⑤ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
 「神の恩寵とも言うべき特異な環境」とは、何もかもが非常に繊細に出来ている、日本特有の自然環境を表現したものです。日本の自然環境についての説明と照らし合わせると、アは第十一段落、ウは第十・第十一段落、エは第八・第九段落の内容と一致しています。イは「自然そのものの豪快さとは対照的に」の部分が第十段落の内容と合わないので不適当です。

⑥ ポイント《文章の内容を理解してまとめられるかどうか》  
 最終段落の内容に注目しましょう。まず、欧米人にとって自然は「人類の幸福のために征服すべき対象」ですが、それとは対照的に、日本人にとって自然は「人間とは比較にならないほど偉大で、ひれ伏す対象」であることを読み取ります。また、日本人の「自然に聖なるものを感じ、自然と調和し、自然とともに生きよう」とする姿勢を、筆者は「非常に素晴らしい自然観」だと高く評価しています。これらの内容を押さえて、指定の字数に合わせてまとめましょう。

4

【出題の意図と対策】

漢詩とその解説文の読解問題です。中国の古典文学は、日本人の生活や文化に多大な影響を与えた貴重なものです。ここでは、白楽天の『香爐峯下、新に山居を卜し 草堂初めて成り、偶東壁に題す』について、森本哲郎が解説を書いたものが題材になっています。漢詩は、語順が日本語と違い、難解なものに感じられるかもしれませんが、作品を通して、古の中国の人たちの心に触れてみましょう。

【解答】

- ① 例 香炉峰の雪はどうであろうか（13字）
- ② A 不精で懶惰
- B 価値ある一時
- ③ ウ
- ④ イ

【現代語訳】

朝日が高く昇るまで、ぐっすり眠ったのであるが、それでもまだ起き出すのがおっくうで、床の上に居る。二階の小部屋で、夜具を重ね着したことゆえ、寒さは少しも気にならない。遺愛寺の鐘の音は枕をかきしげ頭をもたげたままで聴き、香爐峯の雪景色も簾をかかげれば室の中から眺められる。

(されば、この廬山という土地は名利をよそに隠居するには恰好の地であるし、また江州の司馬という今の自分の役は、これでも老後を送るための官としては好都合だ。

心がのんびりし、体が楽に暮らせるところ、これこそわが落ちて着き場所というもの。) 何も長安ばかりが故郷とは限るまい。

(白楽天『香爐峯下、新に山居を卜し 草堂初めて成り、偶東壁に題す』)

春の眠りは心地よく、夜が明けたのにも気づかないほどだ。あちらこちらから鳥の鳴き声が聞こえてくる。

(孟浩然『春暁』)

花が散っても、召し使いはまだ掃除もしない。鶯が鳴いているのに、山中の隠者である私はなお眠っている。

(王維『田園楽』)

【解説】

① ポイント《現代語訳ができるかどうか》  
 ② ③は中宮が雪景色について清少納言にたずねた言葉なので、三行前の「香炉峰の雪いかならん」を現代語訳したものが入ります。「いかならん」は推測するときに使う言葉で、「どうであろうか」「どんなだろう」という意味になります。

② ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
 ⑥の「そのゆえ」は、『重ねて題す』の詩に後述の前段があるからだということを指しています。前段のあとの解説文で、筆者は「人生においてこういうひととき（＝不精で懶惰に過ごす時間）こそ、むしろ好ましい、価値ある一時ではないでしょうか」と述べ、中国の詩で「『懶惰』な暮らしぶり」が好ましげにうたわれていることに共感を覚えていいます。

③ ポイント《表現技法の知識があるかどうか》  
 ④の書き下し文に注目しましょう。「花落ちて家僮未だ掃はず／鶯啼きて山客猶ほ眠る」と、形や意味が対応するように言葉が並べられているので、ウの「対句」が使われているとわかります。

④ ポイント《指示語の指す内容を理解できるかどうか》  
 「そうした生活観」とは、中国の詩にうたわれている「『懶惰』な暮らしぶり」を好ましく思うような生活観を指しています。あとに「白楽天がこの詩でうたっているのは、宮仕えして出世や昇進に心身を勞しているのは愚の骨頂であり、このように心も泰く、身も平穩であることこそ、人間にとって安住の地だ、ということなのです」とあることから、これと同じような内容を表しているイが正解です。